

## クローネ会

東京大学  
社会学研究室  
同窓会 会報

第2号  
2006年3月23日

発行人 / 東京大学社会学研究室同窓会  
発行所 / 〒113-0033  
東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学文学部社会学研究室内

## 世代間 知の伝承と革新を

過去・現在・未来をつなぐために

東京大学教授・クローネ会名誉会長 松本 三和夫

昨年、私は幹事として同窓会に参加させていただきました。1年間を振り返って感じたことは、卒業生の方々が非常にフレンドリーだということです。人生の若い時期を過ごした場への、それぞれの方の「思い」があつて、そうした「思い」の集積に導かれて現在まで来た気がします。みなさん、自然体で接していただき、淡々と物事が進んできた印象です。

ちょうど国立大学法人化の時期と重なり、社会学研究室としても

これから先のあり方を手探りしながら進んでいくことがもめられています。研究室もちょうど10



0周年を迎え、その流れの中で同窓会の行事をやらせていただくことができました。

同窓会の行事を支えていただきここまで来れたのも、誰かの鶴の一声でやるというのではなく、それぞれの方々がいわば自律分散型で自然体で集まって来られた、そういうことがよかつたのではないかと思っています。

100周年という時期に同窓会が出来たということは非常に意義のあることだと感じています。私は卒業生の名簿作成にあたらせていただいたのですが、こんな方が卒業生だったのかということが判明したり、またそこからいろいろと思いを馳せるよすがとなる膨大な資料であり、「宝の山」であると感じました。埋もれてしまつたネットワークだったかも知れません。

ある意味で社会学研究室のよいところだったのかも知れませんが、これまであまり宣伝もせず、ありのままに進んで来たようなところがあります。恬淡でよい伝統だと思いますが、他方でこの機会に卒

業生の方たちのあいだをつなぐ、あるいは卒業生の方たちと現在の教官や院生、学生のあいだをつなぐ、そういう地道な営みの芽も生まれてくることを期待したいと思っています。やがて、過去と現在と未来をつなぐことにつながる。また、現在でもいろいろな地域や職場、国で生きている多くの方がいらつしやいます。学際、業際、国際を超えているいろいろな思いをここに結集していただければすばらしいことだと思ひます。現在の若い学生諸君にとつても非常によい刺激になるたつと思ひます。

私は、世代間で何事かをきちんと伝達していくということが一面で非常に重要なことだろうと思っています。社会に出て、いろいろな現場でも、世代間の技能やカルチャーの伝承ということがきちんと行われているかどうかは重要なポイントになってくるだろうと思ひます。大学はそういう知の伝承にかかわる共通の場、世界全体でながめても、知の伝承と革新に多くの人がひとしく参加できる共通の場です。

## 幹事一覧

(各期取りまとめ担当者)

敬称略、各期順不同

1950	青井和夫
1953	石曾根幹雄
1953	気賀沢洋文・酒井寛・嶋澄・中江利忠
1954	河村望・柳田守生
1955	蓮見音彦
1956	大石脩而
1957	天野勝文・園田恭一・堀江洪
1958	開発武・佐竹洋人・小林赫子
1959	阿部修二郎・鈴木弘一
1960	高杉恒夫・福島健次
1961	松島憲之・村山洋一
1962	蛭川真夫・平松貞実
1963	黒田佳和・原征男・藤田太寅
1964	笠原秀夫・清水敬之・垂木昌三
1965	石井鞆一郎・草薙耕造・井上和子
1966	柿沼正毅・林克行
1967	大橋皓介・加納孝代・高山鋼市
1968	甲田安彦・山本進
1969	盛山和夫
1970	村山研一
1971	伊藤芳明
1972	奥浩一郎・佐藤剛介
1973	竹信三恵子
1974	清滝裕美・高橋朋彦・長谷川公一
1975	志田基与師
1976	佐藤健二・武川生吾
1977	徳安彰
1978	田中秀隆
1979	本間正人
1980	坂本佳鶴恵
1981	奥村隆・岡田茂人
1982	山田真茂留
1983	大森三起子・平山満紀
1984	遠藤知巳
1985	河田剛
1986	風間廣浩・中筋直哉
1987	矢野善郎
1995	崎山治男

同窓会は、そういう共通の場としての大学を構成する重要なチャネルになるような気がします。どのようなやり方があるのか、私たちも手探りの状態ですが、あまり構えることなく、まずは大学の今の雰囲気や日常的な研究や教育にかかわる情報もみなさんにこれからお伝えできればと思っています。

去年からの懸案でもあるのですが、現在プラットフォームはできたのですが、その上に何を乗せていくかというコンテンツの問題があります。今年度以降しばらくは、中身について魅力的なものを出していく局面にあたると思います。その局面では、社会に出ておられる同窓会の方々からの研究室への働きかけと、また研究室からの同窓会の方々への働きかけという相互の働きかけが互いを活性化していくような、うまい形が見いだせるかと思っています。

大学は大学らしさが魅力ですから、それをきちんと伝えていくこと、また同時に同窓会の方々が大いに接近する、今はずつと接近しやすくなっています。そういう双方の動きがうまく調和する状態を作り上げていくこと自体が重要な社会過程だということを実感を持っています。今まで、非常によい雰囲気が醸成されながら物事が進捗しつつあると思います。ぜひこれをさらに発展させていければと思っています。

**同窓会のよきパートナーシップを享受されんことを祈ります。**

**皆さんご参加を**

06年度のクローネ会総会及び懇親会を次のとおり開催します。皆様、奮ってご参加ください。

**2006年6月17日(土)**

<b>幹事会</b>	15:30 ~
<b>総会</b>	16:00 ~
<b>懇親会</b>	17:00 ~

場所：別紙総会のお知らせをご覧ください

**今年度総会日程**

## 『社会学研究室の二〇〇年』

## 編纂を終えて

東京大学教授 佐藤 健一

今回100周年事業の一環とし

て、『社会学研究室の100年』の編纂を担当させていただきました。たまたま担当になってしまった立場からの感想を記してみたいと思います。ありがたいことに、たいへん立派な本だと言われることが多く、担当者としては時間を割いた甲斐があったと、胸をなでおろしています。

そもそもこのきっかけは、ご存じのとおり、嶋澄さん、氣質沢洋文さんなど昭和28年卒業の方々から100周年にあたるので記念事業をという働きかけがあったことでした。卒業生に声をかけて研究室の記念式典をするともに、記念事業として同窓会を発足させ、簡単な年表づくりや、できれば出版も行ってはどうだろうかということになり、2003年から作業に着

手いたしました。

昭和28年はちょうど社会学研究室開室50周年にあたっており、大きな記念式典が行われました。林海海先生が中心になって『社会学科沿革七十五年概観』という記念出版が行われています。たいへんよくまとまった本ですが、これはじつは「紀元二千六百年」記念で出された『東京帝国大学学術大観』の文学部篇（1942年）の



なかで、戸田貞三先生が社会学科

の沿革を初めてまとめられた、それを元に増補したものです。その後、高橋徹先生が今から25年前の東京大学100年記念の年にも、新たに社会学研究室の歴史を書かれています。このような節目、節目にふり返った記録があるから歴史を遡れるのですが、正直なところ、その後を書き継ぐのは難しく、どのように歴史を書いたらよいかは、さて困ったなあというのが実感でした。

私自身、社会学の中で歴史社会学を名乗り、政治史よりも社会史、文化的なとらえ方を指向していますので、あまり制度史に偏りたくない。しかし生活史に踏み込むほどの記録は、なかなか探しだせない。結局のところ、編集の方針としては、物語としてつな

がった100年を語る通史という形ではなく、基本的な資料を共有する方向を目指すということになったのです。一つのストーリーのもとに、成長・発展の歴史を語るのではなく、ゆるやかに資料を並べて、いろいろな読み方が可能になるようなものを作るというスタイルを選びました。

その意味で、第一部は歴史記述というより資料集成ですし、第二部はもつと断片的な記録の落ち穂拾いです。編集はまず、これまでの歴史記述で言及されている資料を、ひとつひとつ原典に遡ってみるという作業を行いました。すると初期の頃の大学の一覧や年報には、これまで引用されていた講義の概要報告だけでなく、例えばフエノロサや外山正一が英文で出した試験問題なども載っている。新体詩形式で書かれた社会学の紹介など、すこし寄り道も楽しませてもらいました。

東京大学における社会学の展開は、良かれあしけれ日本の社会学史の重要な一部分を形づくるものであり、社会学会の発展とも重

なっています。戸田先生が大正12年に社会学研究室を中心に組織した「東大社会学会」が、翌年には日本社会学会として活動を始めていきます。さらにそれ以前の建部先生の「日本社会学院」に遡って、機関紙および雑報記事から、研究室関連の記録を拾いました。

また、全部を見ることはできなかったのですが、文学部学友会が昭和初年から戦前まで出していた会報に、研究室関連の記事があることも偶然見つけました。これは東大の中にも揃っているものがありますが、当時の学生生活など

をとらえることもできる面白い資料だと思いました。その他には、回顧録や、諸先生が退官される時の記念誌、追悼録などが役に立ちました。

また、50年前の記念事業でおそらく整備されたのでしよう、卒業論文の題目一覧がカードの形式で残されていました。これは今回第一部といってもいいCD-ROMに収録いたしました。正直なところデータ作りが大変で、多くの方のご協力をいただきました。ひよっとすると、この卒業論文一覧と、授業科目一覧の2つのデータ

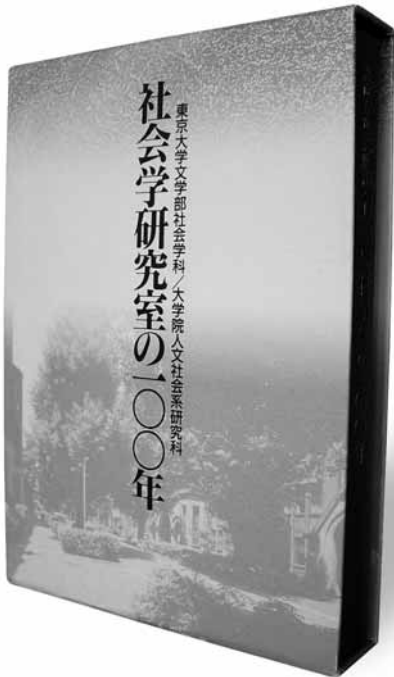
が、労力的には最も大変な仕事だったかもしれません。

くりかえしになりますが、これは歴史ではなくむしろ社会学のデータです。日本における社会学の教育実践の蓄積が浮かび上がってきますし、また、この学問のなかで「社会」がどのようにとらえられてきたのかを考えるきっかけにもなると思います。自分たちの学問の歴史自体を知ることとはとりもなおさず、現代という変動期にあつて大きく変わりつつある社会学のパラダイムを再検討することになります。「社会学の社会学」の日本版の試みとして、回顧という水準だけでなく役に立つことを期待しています。

『社会学研究室の100年』の編纂は、これからの100年に向けての出発点でもあると思っています。それぞれの方が、自分の学生時代のことや、社会学とのかかわりをもっともつと語っていただきたいなと思います。いろいろな形で語られたものが流布し、あるいは埋もれ、時に掘り起こされて、歴史になるからです。20年、30年

たつたら、もう一度自分の学んだことや、学べなかったことを振り返ってみることも大切なのではないでしょうか。今回は「正史」をできるかぎり避けましたが、資料集としても覆えていない時期があります。これまでは印刷物に刻まれている記録が、これからはインターネット空間に刻まれていくかもしれません。これから「歴史」になっていく部分も、まだまだ残されています。社会学研究室のこれからの100年を、卒業生はもちろん、研究室に集まった方々と一緒に作っていくことが、100周年事業に携わって、研究室同窓会を立ち上げた私どもの使命だと考えています。

最後になりましたが、編集にお力添えいただき貼り函入りの立派な本に仕上げてくださった新曜社の堀江洪氏、日本評論社の林克行氏はじめ、執筆いただきました皆様、データ入力や編集の諸作業にあたってくれた大学院生諸君に、あらためて感謝申し上げます。



平成16年度  
平成17年度クローネ会  
総会

報告

The Report on the General Meeting

## 平成16年度総会

平成16年度東京大学社会学研究室同窓会総会は11月13日、法文2号館31番教室で開催された。定数の10分の1充足により総会成立が報告され、中江利忠会長が総会議長に選任された。

議案1 「規約改訂」は、規約第1章総則第1条「本会は東京大学社会学研究室同窓会と称する」を「本会は東京大学社会学研究室同窓会・通称『クローネ会』と称する」に改訂するものである。常任幹事会でわかりやすいニックネームを検討、中江会長より、社会字は様々なディスプレイを束ねる冠の学問であるという意味で、「冠」のドイツ語「クローネ」を本会の通称としてはどうかという提案があり、常任幹事会での採用案になった。常任幹事会提案の事後承認の形で採決された。（以下、「クローネ会」を本会名称として使用する）

議案2 「会計監事選任」では、藤本直道会計監事がご病気のため辞任され、後任候補として高

山岡市氏を常任幹事会で選定、採決された。

議案3 「平成16年度事業報告」では、10月31日までの期中報告であることの了解をいただいたうえで、承認された。

議案4 「平成17年度事業計画」の報告に対し、総会の開催時期についての質問があり、加納常任幹事より、11月は同窓会設立に伴う変則的なものであり、1〜12月の会計年度が終わった後にできるだけ早い時期に会計報告を行う



総会で報告をされる中江利忠会長⑤と加納孝代常任幹事

ため、5月頃を定期的なものとして、5月頃の回答がなされ、承認された。

議案5 「会計報告」が行われた。まず百周年記念事業会計報告については、2003年度より約474万円の残高があり、記念誌および名簿の印刷費等で約300万円強の支出が予定されていること、最終残高約150万円程度のクローネ会会計組み入れ予定が報告された。

同窓会（クローネ会）会計については、2003年・2004年度合わせての報告がなされた。終身会費87名、年会費254名の振り込みがあり、11月8日現在約266万円の残高が報告された。

質疑応答に移り、今後若い人たちの拡大をという要望の声が出された。議長より、若年層参加の呼びかけを実現したいとの答えがあった。

また、百周年記念誌の残部について、同窓会希望者に一部5000円で頒布するという提案がなさ

## 平成16年度 事業報告書

平成16年1月1日～平成16年12月31日

### 社会学同窓生のネットワークの構築

#### 1 総会の開催

同窓生全員を対象とする総会を平成16年11月13日に東京大学法文2号館31番教室において開催し、以下の事項を承認・議決した。

規約改訂:第1条通称「クローネ」会を挿入  
 会計監事選任:藤本直道氏退任、高山綱市氏就任  
 平成16年度事業報告  
 平成17年度事業計画  
 会計報告

総会の終了後、山上会館にて、懇親会を行った。

#### 2 幹事会の開催

総会に先立って幹事会を開き、総会付議事項を議論する場を用意した(平成16年11月13日)。

#### 3 常任幹事会の開催

幹事会とは別に、常任幹事会を下記の日程で開催した。  
 平成16年1月9日、5月19日、9月24日、11月1日

#### 4 新卒業者への同窓会加入促進

3月25日の社会学研究室の卒業式には、長尾立子副会長が卒業式に来賓として出席し、同窓会の存在を知らせて、入会を呼びかけた。

#### 5 同窓会報「クローネ」の刊行

同窓会報「クローネ」第一号を7月10日に発行した。

### 社会学研究室との連携

#### 1 社会学研究室との定期的な会合

常任幹事は、社会学研究室との連絡を密にして、研究室活動の支援の実を上げるようにした。

#### 2 常任幹事会への研究室担当者の参加

社会学研究室は、同窓会との連絡担当教官として松本三和夫教授を選任し、研究室からの正式な依頼事項、ならびに同窓会からの研究室への正式な依頼事項の調整を図った。

### 記念事業の完結への協力

#### 1 社会学研究室設立百周年記念誌の完成

百周年記念事業として企画された百周年記念誌の作成に同窓会としても協力を継続し、平成16年11月13日の総会に合わせて完成することができた。

#### 2 卒業生名簿の完成

百周年記念事業時に着手された卒業生の名簿作成に関しては、学年担当幹事がそれぞれの年次の情報を集約するなどして協力し、平成16年11月13日の総会に合わせて完成することができた。



懇親会で挨拶をされる上野千鶴子名誉会長

れ、承認された。

報告事項に移り、記念誌・同窓会名簿について松本三和夫教授より記念誌の内容や付属CD、RO

総会後、山上会館において懇親会が開かれた。上野千鶴子名誉会長のご挨拶に続き、和気藹々の懇談の時がもたれ、青井和夫先生に

Mについての紹介名簿の今後の充実などの報告がなされた。また、クローネ会副会長の長尾立子氏が11月13日に旭日大綬章を受章されたことが報告された。

もご挨拶をいただいた。

### 平成17年度総会

平成17年度クローネ会総会は6月11日学士会館本郷別館で開催された。

議案1 「人事案件」では、松本三和夫教授が常任幹事を退任、佐藤健二教授が後任として就任。会計の大森三起子さん退任、福留慶子さんが後任で就任。名誉会長は研究室主任教授が就任する

規約により、上野千鶴子先生が退任、松本先生が就任された。研究室事務局担当が崎山治男助手から宮本直美助手に。事務作業増にもない2名のパート事務局員を採用したことが報告された。

議案2 「会員推薦」、規約第2章第23条に定める幹事会の推薦により、中退の方のクローネ会参加を承認した。

議案3 「平成16年度事業報告」は、加納常任幹事より報告され、承認された。

## 平成17年度 事業計画(案)

平成17年1月1日～平成17年12月31日

### 社会学同窓生のネットワークの構築

- 1 総会の開催  
同窓生全員を対象とする総会を6月11日に開催する。総会の終了後、懇親の場を設けて、卒業生が定期的に来る機会を提供する。
- 2 幹事会の開催  
総会に先立って幹事会を6月11日に実施し、総会付議事項を議論する。
- 3 常任幹事会の開催  
幹事会とは別に、常任幹事会を年4回程度実施して、事業の円滑な運営を図る。
- 4 新卒業者への参加促進  
3月の社会学研究室の卒業式には、同窓会関係者が卒業式に来賓として出席し、同窓会の存在を知らせて、入会を呼びかける。
- 5 同窓会報「クローネ」の刊行  
同窓会報を発行し、研究室ならびに同窓生の現状を紹介する。第2号は7月に発行する。

### 社会学研究室との連携

- 1 社会学研究室との定期的な会合  
常任幹事は、社会学研究室との連絡を密にして、研究室活動の支援の実を上げるようにする。
- 2 常任幹事会への研究室担当者の参加  
社会学研究室は、同窓会との連絡担当教官を選任し、常任幹事会への出席を要請し、研究室からの正式な依頼事項、ならびに同窓会からの研究室への正式な依頼事項の調整を図る。
- 3 社会学研究室のホームページの活用  
社会学研究室のホームページを活用して同窓会の行事予定等へのアクセスを可能にする。

### 研究活動の社会還元

- 1 講演会の開催  
卒業生による講演会を企画し、社会学研究の現況、卒業生の社会活動の現況などを同窓生が知る機会を設ける。
- 2 講座・ゼミナールの情報の提供  
社会学研究室で開講される講義・ゼミナール・研究会等のうち、卒業生の参加が可能なものの情報を提供する。

### 社会参加への支援

- 1 インターンシップ  
同窓生の在職企業でのインターンシップ受け入れ先情報を研究室に提供する。
- 2 就職説明会  
学部学生を対象とした就職説明会の開催を支援する。

議案4 「平成16年度会計報告及び監査報告」大森常任幹事より、百周年記念事業およびクローネ会計報告が行われ、高山常任幹事より適正な処理であることが監査報告され、承認された。

議案5 「平成17年度事業計画及び予算案」では、加納常任幹事より平成17年1～12月の事業計画として提案され、承認された。

報告事項として、会計年度・事業年度が1～12月である問題であり、期中報告・承認の不都合が発生

生するため、今後常任幹事会で検討することが報告された。

また、若い年次を中心に、一層のクローネ会参加を呼びかけるため、各期幹事の方々との連絡・協力を進め、常任幹事会で検討を行うことになった。

会の最後にはじめての試みとして、藤田寅夫副会長より「NHKの社会学」と題した記念講演が行われた。

総会后、山上会館において懇親会が開催された。

## 2005年度予算案

2005年6月11日  
会計責任者 / 大森三起子

収入	
年会費(3000円×215名)	645,000
2004年度からの繰越	5,534,507
計	6,179,507
支出	
会報印刷代(120,000×2回)	240,000
通信費	400,000
人件費(会報発送、総会等を含む)	300,000
総会費	50,400
講演会費	100,000
会議費	30,000
予備費	50,000
次年度へ繰越	5,009,107
計	6,179,507

## 2004年度会計報告

2005年6月11日  
会計責任者 / 大森三起子

### 100周年記念事業会計報告

<b>収入</b>	2003年度からの繰越	4,987,834
	収入合計	4,987,834
<b>支出</b>	名簿作成費用	729,045
	通信費	1,045
	校正人件費	27,000
	レイアウト等人件費	176,000
	印刷製本代	525,000
	講演テープ起こし人件費	45,000
	記念誌作成費用	2,222,233
	資材費	245,333
	製版代	1,137,680
	印刷費	175,000
	製本代	288,400
	雑費	270,000
	消費税	105,820
	挨拶状印刷代	2,079
	記念誌送料	235,380
	記念誌発送手数料	51,240
	振込手数料	1,890
	同窓会会計へ組み入れ	1,700,967
	支出合計	4,987,834

### 同窓会会計報告(2003年度-2004年度)

<b>収入</b>	終身会費(117名)	3,525,000
	2004年度分年会費(317名)	957,000
	2005年度分年会費(48名)	144,000
	懇親会参加費(45名)	225,000
	銀行利息	7
	記念事業より組み入れ	1,700,967
	収入合計	6,551,974
<b>支出</b>	銀行・郵便局口座用印鑑	14,500
	ゴム印	808
	銀行法人カード発行手数料	1,050
	事務局消耗品代	8,446
	会議費	7,733
	会報発送人件費	42,000
	会報郵送費	130,480
	会報印刷代	113,400
	振り込み手数料	1,200
	総会案内状発送人件費	48,000
	総会案内状郵送費	127,680
	封筒・案内状等印刷代	208,965
	懇親会会場費	17,520
	懇親会飲食費	239,925
	総会・懇親会受付人件費	48,000
	通信費	1,160
	振込用紙印刷代	6,600
	2005年度へ繰越	5,534,507
	支出合計	6,551,974



## 研究室 だより

同窓会発  
足3年目を  
迎え、クロー  
ネ会と研究

室との交流をますます発展させて  
いきたいと思えます。研究室の今  
後の予定などをお知らせします。

2006年のソウル大学との  
第4回ジョイントセミナーは11月  
4日にソウルで行われる予定です。

### 異動関連

・2005年3月に稲上教授が  
法政大学へ、吉野教授が上智大学

へ転任しました。

・4月に、筑波大学から白波瀬佐  
和子助教授、信州大学から赤川  
助教授が着任します。

・似田貝香門教授が2006年  
3月に定年で退職します。3月18  
日に最終講義を行い、略歴と業績  
をまとめた「Career and Works」  
の小冊子を配布されました。

今年度は、研究室のホーム  
ページと連動して、クローネ会の  
ホームページを立ち上げたいと考  
えています。

研究室の事務局担当の崎山助

手が同志社大学に移られ、代わっ  
て2005年4月より宮本直美助  
手が着任しました。

### 編集後記

年2回発行を予定しておりまし  
たクローネ会報ですが、担当幹事  
の健康などにより本年度は1回し  
か発行できませんでした。謹んで  
お詫び申し上げます。次号は総会  
後の7月ごろを予定しております  
が、今号で掲載できなかった総会  
での記念講演などを中心に編集を

進めてまいります。また、クロー  
ネ会のホームページを立ち上げる  
企画も進行中です。社会学研究室  
と会員の皆様とのよりよい双方  
のコミュニケーションを実現する  
ためには、ホームページとともに、  
この会報の持つ意義がさらに大き  
くなつてくると思えます。今後原  
稿の執筆など、会員の皆様のさら  
なるご協力をいただかねばなりま  
せんが、皆様とともに、よりよい  
クローネ会報をつくりあげていき  
たいと思えます。よろしくお願  
いいたします。